

ひとから真に求められる『心のケア』を考えます

ベトレヘムの風

発行：ベトレヘムの園病院 隔月15日発行 編集：広報委員会
住所：東京都清瀬市梅園三丁目14番72号 ☎042-491-2525 URL: <http://www.betohp.com>



No.115

『痛くないコロナ抗原検査 ～「ベトレヘム鼻つまみ法」の開発～』 院長 青木 信彦



だいぶ過去のこととなりますが、令和2年1月号「ベトレヘムの風」の巻頭言は『痛くないインフルエンザワクチン注射～RPSIメソッドの開発と実践～』でした。

まず、ここで以下に再掲させていただきます：

「苦節5年、自己生体実験を繰り返し、ついに痛くないインフルエンザワクチン注射法の開発に成功したのです。開発者の名をつけてAOKI Methodとしたかったのですが、AOKI Methodは世界で最も侵襲の少ない慢性硬膜下血腫の手術方法としてすでに使用されているので、今回は控えめにRPSIメソッド (Rapid Puncture Slow Injection 急速穿刺・緩徐注入) としました」。

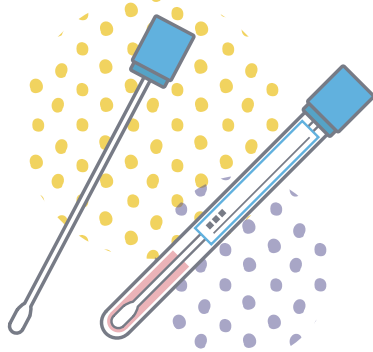
その後、押し寄せるコロナワクチン接種も追い風となって、RPSIメソッドは諸家に引き継がれ、いまでは清瀬市梅園地域カイワイでは痛くないワクチン注射として幅広く知られるところとなっています。(若干、大風呂敷ギミ)

さて今回はコロナ抗原検査（鼻腔からの検体採取）で最大の難関となっている、長い綿棒を鼻腔の奥まで挿入することに着目したのです。

この場面で、おそらく“誰もが苦しんでいることでしょう”。

ベトレヘムでは、この苦難を克服する手法について研究してきました。

ここではその研究成果として、鼻腔からの自



己検体採取の画期的な開発について報告します。

これはベトレヘムのオリジナルの手法で、検査キット使用マニュアルにも記載されていません。

☀️キモになるのは「軽く鼻をつまむこと」です☀️

軽く鼻をつまんでおいて、そのまま長い綿棒を時計回り・反時計回りを繰り返しながら、痛くない部分に向かって少しずつ先へ進めるのです。

この手技の本番開始の直前に5回程度「鼻つまみ」を繰り返すと鼻からの検体分泌が促進され、同時に受け皿となる鼻腔粘膜自身も心の準備が整います。クシャミなども出にくくなります。

当然、この手法は他人まかせではできません。自分でできないのです。やはり、何ごとも自分のことは自分でしましょう（とくに中高年・男性の皆さん!）。今後、この手技を「ベトレヘム鼻つまみ法」（何となく、違和感のある命名ですが）として世界へ向けて発信してまいります。

みなさんも本手法をマスターして、コロナ克服にお役立て下さい。



第22回 院内研究発表会

当院におけるポジショニングについて ～アンケート調査を用いて～

リハビリテーション科 理学療法士 井上 翼

ポジショニングについて、当院の現状をアンケート調査した結果を発表しました。結果からはポジショニングを実施側と作成側共に同じ目的意識を持って取り組んでいることが分かりました。しかしながら、ポジショニングが難しい、使用するクッションの種類が少ないなど克服しなければならない課題も見つかりました。



コスト削減の取り組み ～油の使い方を見直して～

栄養科 栄養士 横江 瞳

近年の食材料価格の高騰に伴い、当院の給食食材料費は4年間で20%増加している。食材料費の削減を目的として、価格上昇が著しい油の使用方法を見直し実践した。安全性を確保しながら年間で一斗缶4本の削減につなげることが出来た。今後も美味しい食事の提供と安全性を確保しながらのコスト削減に取り組んでいきたい。



アクトシン・イソジンシュガーパスタ混合薬の使用実績について

薬剤科 薬剤師 小熊 梢

2年ぶりに院内研究発表をさせていただきました。どんな演題にしようかと悩みましたが最近の当院の褥瘡治療に少し変化が出てきましたのでそのことについて発表させていただきました。なかなか治癒にならない患者様が少しずつ治癒に近づいていく現状を嬉しく思います。これからも患者様のQOLの向上を目指して引き続き褥瘡治療に取り組んでいきます。



感染委員の働きかけにより起こったケアワーカーの感染対策についての意識と行動の変容

1階病棟 看護師 伊東 芽以

今回の看護研究では、昨年度ケアワーカーさんに対して行った標準予防策レクチャーがどのように活かされているのかを調査し、課題を分析しました。看護研究は一回経験していましたが、一人でやりきることは難しく皆様の力を借りて形にすることができました。共同研究者の富田さん、インタビューに協力してくださった一階病棟のケアワーカーさんたちにこの場を借りて感謝申し上げます。



日々進化する臨床検査科業務マニュアル

臨床検査科 検査技師 大谷 佐江子

臨床検査科では、電子カルテ導入時に業務マニュアルの改定を行うにあたり更新の容易性を優先した結果、Microsoft Excelを用いて業務マニュアルを作成して運用を行っており、その経験を事例として報告した。

現状、視覚的に難はあるものの、内容の更新はスピーディーに行われ、常に業務に最適化されたマニュアルの運用が行われている。



特別講演

「療養病院におけるパストラルケア」 ～応えのない問いに寄り添う～

パストラルケア室 スピリチュアルケア師 平野 のぞみ

病室訪問をして患者の名前を呼びかけると、目を開き、不思議なほど、心の底にそっと仕舞っておかれた事柄を話して下さいます。スピリチュアルニーズは、死を直前にして、自身の人生の意味と死後の世界を共に考える、心と魂の対話者がいない時の孤独感に由来すると言います。療養病院のなかには、人生の最終章を自覚しておられる方が多く、患者へのスピリチュアルケアと家族へのグリーフケアの必要性を感じます。

当院は療養病院の中でも、パストラルケア室を置き、緩和医療を提供しており、電子カルテをはじめ、入院患者の一人ひとりを大切にする、最良の環境が整っている病院ではないでしょうか。

パストラルケア室は宗教的ケアとスピリチュアルケアの両輪を担っています。創立以来、司祭によるカトリックの秘跡（聖体、許し、洗礼、病者）がされており、患者、家族の霊的な癒しにつながっています。カトリックの「いのちの永遠性」「人間は霊的存在である」の人間観が尊重され、当院の風土となっています。聖なるもの、大いなるものにつなげるケアとして、「祈り」を大切にしてきました。

スピリチュアルケア師として、応えのないスピリチュアルペインに寄り添うことは、ケアされる人、する人の内部の力を支援すること、生きる力への支援につながります。その手段は「共鳴のあるコミュニケーション」と言えるのではないのでしょうか。スピリチュアルケアは、当院の職員、一人ひとりが心掛けていくケアではないのでしょうか。



令和3年度 外来アンケート集計結果

令和4年3月に外来を受診された方々を対象に当院についてのアンケート調査を実施しました。

このたび調査の結果をご報告いたします。

〈実施期間〉 2022年3月14日～2022年3月25日の2週間

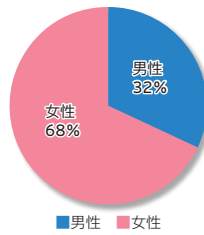
〈対象〉 当院の外来を受診された方々

〈調査方法〉 診察や会計の合間に聞き取り、または本人記述

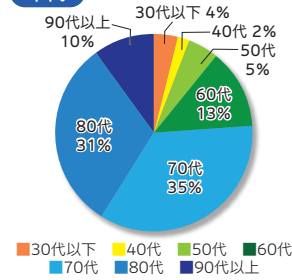
〈回答件数〉 80件

～患者基本情報～

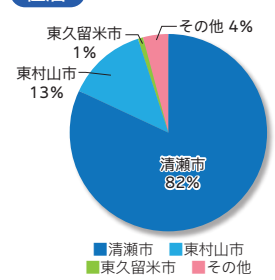
性別



年代

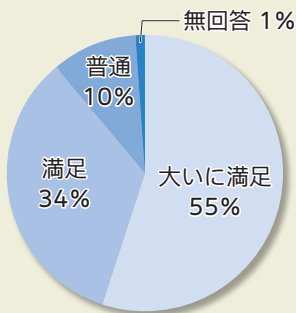


住居

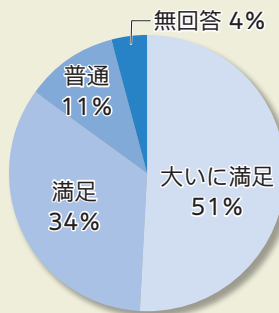


～当院に対する評価～

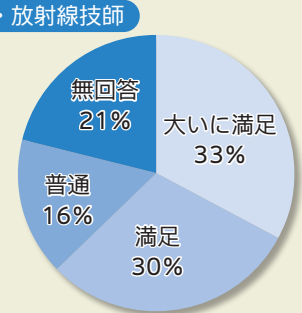
医師



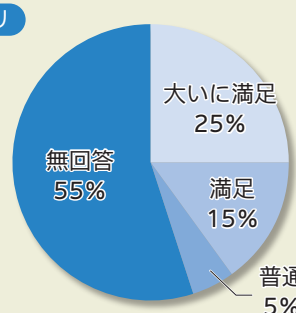
看護師



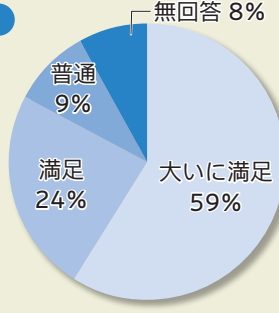
検査・放射線技師



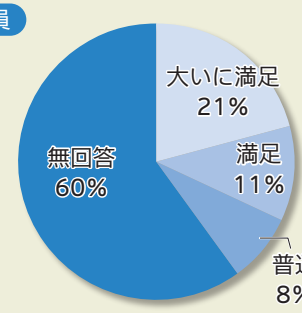
リハビリ



受付事務



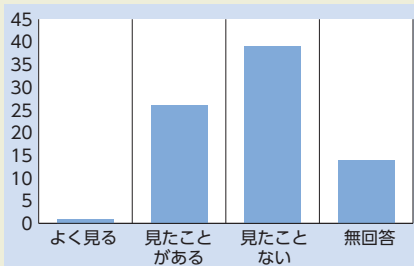
相談員



当院のホームページについて

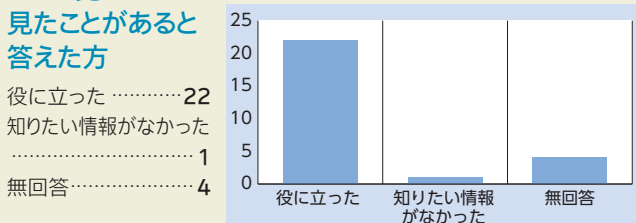
よく見る…………… 1
見たことがある…………… 26
見たことない…………… 39
無回答…………… 14

当院のホームページについて



→よく見る+
見たことがあると
答えた方

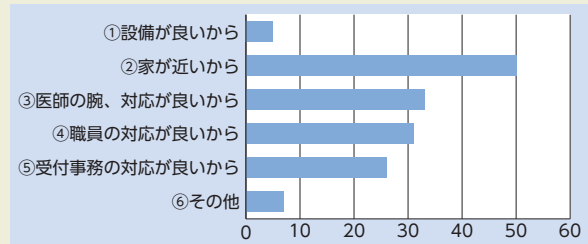
ホームページの情報について



当院を利用して頂ける理由は何ですか？（複数回答可）

①設備が良いから…………… 5 ②家が近いから…………… 50
③医師の腕、対応が良いから…………… 33 ④職員の対応が良いから…………… 31
⑤受付事務の対応が良いから…………… 26 ⑥その他…………… 7

当院を利用する理由



コロナ禍の生活で変わったこと・気を付けていることは何ですか？

- ・外出を抑える
- ・手洗い、うがい、マスクの着用の徹底
- ・人混みに行かない
- ・今まで以上に体調に気を付ける
- ・前もって情報などを得て、計画的にスケジュールを立てる
- ・自炊などで健康的な食事を心掛ける
- ・筋力低下を防ぐため、適度な運動を行う

～アンケートを終えて～

今回で5回目の外来アンケートですが、今回も地域の方々の率直なご意見を頂くことが出来ました。この貴重なご意見や要望を真摯に受け止め、当院における今後のサービス向上に役立てて行きたいと思っています。これからもお気付きの点がございま

したら、院内設置の「ご意見箱」への投函、または直接職員まで忌憚のないご意見を賜りますようお願い申し上げます。

最後になりましたが、お忙しいところアンケートにご協力頂きました皆様に心より御礼申し上げます。 医療連携課 大崎

ひふの話

その
67

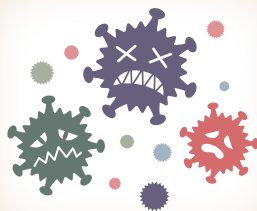
市川 雅子(皮膚科医師)

結核と梅毒

今年の夏、厚生労働省から、結核と梅毒に関する正反対の報告がありました。結核も梅毒も、古くからある病気で、発疹が出ると皮膚科でも診る病気です。

まず結核ですが、昨年の日本の結核患者数が人口10万人あたり9.2人となり、「結核“低”まん延国」になったと発表がありました。日本では、明治時代から昭和20年代まで「国民病」であり「死の病」と恐れられましたが、戦後、国の対策と治療薬の開発、環境や栄養状態の改善などにより罹患率も死亡率も低下しました。しかし、先進国の中では依然としてトップの罹患率でした。

これは我が国の超高齢化も原因の一つで、結核がまん延していた時代に生まれ育った人で感染しても発病しなかった人が高齢になり免疫力が低下することで発病するケースが増加しました(結核菌は肺の中で何十年も生きます)。しかし、若い人も発病していますし、結核患者が多い国



から来た人の発病もあります。

今回の患者数の低下と新型コロナの流行との関係はまだはっきりとはしていませんが、人の動きが減り、マスク着用や手洗いや消毒の徹底などが影響しているのではないかと考えます(結核の症状などについては結核予防会のHPをご参照下さい)。

その一方で、梅毒が急増しているというニュースがありました。今年は過去最高の患者数になるようです。梅毒は、梅毒トレポネーマが病原体の性病です。空気感染はしませんが、血液や体液でうつります。性風俗の利用或いは従事した感染者が全体の3~4割を占めます。男性は幅広い年代で感染が増加し、女性は若い年齢層での感染が多いようです。梅毒の症状等については厚生労働省のHP「梅毒に関するQ&A」などを見て下さい。

今年の梅毒の急増が新型コロナの流行とどの程度関連があるのかは、まだ不明です。性風俗の利用や不特定多数との性交渉は感染の危険が増します。感染が不安な人は医療機関を受診して下さい。

また、性病全般に言えることですが、「自然治癒はしない」「何度でもかかる」「検査が陰性でも感染していれば相手にうつす」「一度の性交渉で複数の性病にかかることがある」「治療の中断で耐性病原体が出現し治りにくくなる」という特徴があります。

お知らせ

11月の健康公開講座

「誰にもある悩み、尿もれ・ちょいもれ工夫して楽しく外出!!」

日時：令和4年11月17日(木) 14:30~

場所：当院会議室

講師：大王製紙より 栗原アドバイザー

看護部長 窪田

介護福祉士 草野 豊里

参加費：無料

進化したフィットパンツを体験してみましょう!!

尿もれ予防体操もあります

参加者さんに素敵なプレゼントあります



インフルエンザ ワクチン接種について

予約なしで内科外来にて接種できます。
受付時間内にお越し下さい。



編集後記

今年も残り2カ月、口々に「もうそんな時期か」「一年あっという間だよね」などそんな言葉が口をついて出ます。この感覚って調べたら「ジャーネの法則」と言うそうです。

20歳を過ぎると一年どんどん早く感じるようになり、50歳にとっての一年間は、1歳の時の7日間と同じ長さを感じるそうです。そう言えば子供の頃は、夏休みなどの行事を待ちわびていたように思います。大人になると同じ行事を繰り返すことが多くなり、新鮮味がないため時間の経

過が早く感じられるようになるのかも知れませんが、50歳、60歳になっても毎日を新鮮に感じながら過ごしたら若返るのかなー？ そしたら時間も平等に流れているように感じられるのかなー？ 皆さん来年は新鮮な気持ちで充実感や達成感を感じられる若返る(笑)一年を過ごしましょう。



(H・K)